

2020 年度

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4076500125		
法人名	有限会社 ケアセンター すずらん		
事業所名	グループホーム すずらん	ユニット名	2棟
所在地	福岡県朝倉市杷木穂坂89番地の1		
自己評価作成日	2020年10月2日	評価結果市町村受理日	2020年10月28日

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	一般財団法人 福祉サービス評価機構		
所在地	福岡市中央区薬院4-3-7 フローラ薬院2F		
訪問調査日	2020年10月15日	評価確定日	2020年10月21日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

ホームの周囲は、田・畑・果樹園、山並みや筑後川の流が広がり季節の移り変わりが自然と目に見えています。押し車や車椅子の方が多く、散歩の時に季節の花や野菜、稲やブドウ、柿の実を見て楽しんで頂いています。地域のよど祭りやお大師様などの行事にも参加し地域の方々との交流を深めるとともに、毎月、何らかの行事か外出を計画しホームでの生活を楽しくして頂けるようにしています。また、御本人の出来る事はできるだけ御自分でやって頂けるよう支援しています。さらに、自立支援・重度化防止に資する介護を進めるため、協力病院の作業療法士の指導のもと、機能訓練を行っています。主治医やご家族との連絡を密にして、身体機能のレベルが低下した利用者様でも、出来るだけホームの行事に参加していただいたり、個別にドライブ等の外出の機会を設けるとともに、希望する方にはターミナルケアを行うなど、利用者様やご家族が「良かった」と喜んで頂けるようなケアに取り組んでいます。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

--

自己評価および外部評価結果

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎朝、申し送り時に唱和し理念に沿った介護をしようと意識している。		
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	施設の行事に地域の方にも参加して頂き、地域の行事にも参加している。散歩など近所の方と会うと挨拶や会話をしている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	地域の方に認知症やグループホームの話をして、理解を得ている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回、会議を開き、地域の民生委員、老人会長、市職員、利用者様、ご家族様に参加して頂き、サービス提供の内容報告や情報交換、意見交換などを行うとともに参加者から提案要望を受けて、ホームの質の向上と理解につなげている。		
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	市役所主催の研修に参加して質問や助言を頂き、サービスの取り組みを相談している。 運営推進会議に市担当職員に参加して頂き、助言等を頂きサービスの向上につなげている。 生活保護担当者とも来訪時や電話での連絡を取り協力関係を築いている。		
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	平成30年6月から身体的拘束等適正化委員会を立ち上げ、職員が身体拘束禁止、虐待防止についての外部の研修に参加している。拘束をせず自由に動けるケアが出来るように拘束、虐待について知識を深められるように勉強会を行っている。		
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	毎日のケアの中で、言葉づかいなど何が虐待にあたるのか考え行動し、サービス担当者会議でも話し合いを行い、意識を共有している。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	サービス担当者会議などで制度に関する勉強会を行い、新人職員にも伝えている。ご家族様にもパンフレットを準備し説明している。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入所時に「利用契約書」「重要事項説明書」「重度化した場合における対応に係る指針」「個人情報保護に関する同意書」を説明し、不安に思うことや疑問に対する事等を回答して、理解し納得して頂けるように努めている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に状況報告を行い意見を伺っている。月1回、生活状況報告書、すずらん便り及びすずらん報告をご家族に送り意見を伺っている。また、玄関に意見箱を設置している。		
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	サービス担当者会議等で意見を出し合い、意見交換を行い、ユニット長が意見をまとめて管理者に伝えている。		
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	処遇改善加算及び特定処遇改善届出書を提出し給与の改善に努めている。職員の生活状況、体調、希望休に応じた勤務表を作成し、仕事をしやすいように職場環境を整えとともに、各種手当(資格、夜勤、介護業務、家族、住居等)を支給しています。産休育休、育児休暇、介護休業の体制もできている。研修は勤務扱いとして旅費を支給している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	年齢や性別、経験の有無による制限はしていない。各行事の担当者を決めて他スタッフと協力して行っている。資格取得に向けた支援をして実務者研修等に参加している。		
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	外部研修の機会があれば参加し、研修報告書を回覧するとともに、機会あるごとに人権を尊重した介護に取り組むよう指導している。職員同士が業務中もご利用者の行動を把握し情報交換を行っている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況		実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の資質向上のため、初任者研修・実務者研修や興味のある研修に参加できるようにして旅費も支給している。 研修に参加して、他職員に必要な研修報告書としてまとめて、いつでも閲覧できるように提供している。 資格所得援助金制度を設け職員の資格所得を推進している。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	福岡県グループホーム協議会、全国グループホーム協会、朝倉介護保険事業者協議会や市町村、施設などの行事にも参加し、意見交換を行っている。		
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入所前にご本人様とケアマネジャー、ソーシャルワーカーと面談を行い必要としている支援を聞き入れるとともに心身の状態等を見極めて、施設の会議で情報を共有し話し合いを行い、安心して入所して頂けるようにしている。		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	入所時にアセスメントにそって情報を聞き取り、ご家族様の要望や不安を傾聴し、職員間で話し合っている。		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	ご本人様、ご家族様との面談を行い、主治医、看護師、ソーシャルワーカーやケアマネジャー等からの情報を元に会議で職員が多面的な角度から話し合い、ご本人様が安心して生活出来るように努めている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	利用者様のできる事を活かすため、洗濯物干し・たたみ、テーブル拭き、掃除等を職員と一緒にやり、感謝の言葉を伝えると笑顔になられている。		
21		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	面会の時や生活状況報告書にて最近の様子を開示報告している。状態変化等により電話でも状態報告を行っている。		

自己	外部	自己評価	外部評価
----	----	------	------

己	部		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	日々の生活の中で、ご本人様の生活歴を教えて頂き、日々の会話にまじえさせて頂いている。		
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	レクリエーションや機能訓練等に参加して頂き、会話する機会を作って孤立しないようにしている。耳の遠い利用者様でも職員が間に入り楽しく会話できるようにしている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退所後もお会いすると、声をかけたり、かけられたりしてお話している。また、亡くなられた方のお通夜、お葬式に行っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日常の会話、行動などから、ご本人様の思いを感じ、希望や意向の把握に努めている。話しやすい雰囲気、場面を作り、ご本人様の話に傾聴している。会話のできない方は表情を見たり、ご家族様から話を伺っている。		
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	ご本人様やご家族の方から、これまでの生活歴、生活環境等を伺い、ご本人様がプラスに生活出来る内容を考え話し合っ検討している。		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	ご本人様の気持ちや、その時の心身の状態に合わせて、その状態に応じた介護をして、個別手順書で把握する様にしている。利用者様の様子、会話表情から心身の状態を把握し、申し送り等で職員が共有するようにしている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	日々の状態や課題などを職員から聞き、ご家族様にも意見を聞き、サービス担当者会議に意見をまとめ、入居様が楽しめること、出来そうなことをプランにあげている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の記録や日々の状態をみて気づいたこと等を申し送り時に共有し、日々のケアに活かしている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	入居者様の病院受診や生活していく上で必要な物をそろえ、ご家族様が買ってこられない時は、施設で準備をし生活環境を整えている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	施設行事の時に子供会、保育園、老人会、民生委員、地域の方を招待し、散歩の時などにも会話をして頂き生活の様子を見て頂いたりしている。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	入所時にかかりつけ医の希望を聞き、定期的に健康診断に行ったり、体調が悪い時などはかかりつけ医の受診をして、家族と相談しながらその都度対応している。 往診できない医療機関へは職員が入居者様を連れて受診している。		
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	利用者様の状態に変化があったり、気づいた点がある時は、その都度、看護師に報告し、利用者様が適切な処置や受診を受けられるようにしている。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時に家族と連絡をとったり、ソーシャルワーカーと連絡を取り、入院中の様子を聞いている。その情報をスタッフが共有している。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	状況に応じて主治医を交えた詳しい説明相談を行い、ご本人様やご家族の意向を聞いた上で、出来る限り対応できるよう職員全員で情報を共有している。ターミナル同意書や緊急連絡先の記入をいただいている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	マニュアルを作成し、職員一人ひとりがシュミレーションを行い、研修などに行き応急手当や初期対応を訓練し、利用者様の状態に応じた対応がとれるようにしている。分からない事があれば看護師や主治医に聞いている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	火災や水害等の避難訓練を行っている。非常食や必要な物をキャリアバッグに入れて準備し、定期的に確認している。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	声かけや会話を行って、利用者様のペースで生活出来るように努めている。虐待防止の観点からも、利用者様に対する言葉づかい、プライバシー保護に配慮している。		
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	入居者との会話や表情から、本人の思いや希望を引き出し、自己決定が出来るようにしている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	レクリエーション、リハビリ等の声かけを行うが、利用者様一人ひとりのペースに合わせて、楽しく笑顔で生活して頂けるようにしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	散髪に来ていただき、離床後は髪をいったり目やになどをホットタオルで拭いたりして、身だしなみに気をつけている。また、季節にあった服選びにも気をつけている。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	好きな物、食べたい物をお聞きしたり、季節の野菜を使い料理を提供している。食前・食後のテーブル拭きやおぼん拭き等手伝をして頂いている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	入居者様の状態に合った食事形態にし、食べる時のスプーンやおはしも、その方に合った物を利用して頂いている。水分量なども、ご自分のペースで1度に飲めない方は何度かに分けて飲んで頂いている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	ご自分で歯みがきができる方は、ご自分で磨いて頂き、職員がみがき直しを行っている。うがい出来ない方は口腔内ウエットティッシュで口の中を拭いている。義歯はポリドントにつけて清潔を保っている。スポンジブラシを使用されている方もいる。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	時間を見て声かけをしトイレ誘導している。排泄記録をつけ職員が把握するようにしている。パンツ、ズボンの上げ下ろし出来る方は、職員が見守り声かけを行い、ご自分でして頂いている。		
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	水分を取って頂きながら、便通に良い食物を摂って頂いている。体操など体を動かして頂いたり、腹部マッサージを取り入れている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	入居者様の気分や体調に応じて、入浴して頂いている。 また、体調不良の方には、清拭やドライシャンプーを行うようにしている。		
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	ベッド、畳の部屋を使い分け、安全に休めるようにしている。昼食される方々は居室で休んで頂き、ホールソファが良い方は、ソファでくつろいで頂いている。温度、湿度管理を行い、利用者様に気持ちよく安眠・休息をとって頂いている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	薬の処方箋を個人のファイルに入れて、いつでも見られるようにしている。変更があった場合は申し送りで用法、用量、副作用など周知徹底している。錠剤で飲めない方には、薬をつぶして、水分にトロミ剤を混ぜて服用して頂いている。		

自己	外部	自己評価		外部評価	
		実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	利用者様が出来る役割、楽しみを提示している。職員と一緒に洗濯干し・たたみ、モップかけ、テーブル拭きなど手伝って頂いている。また、お歌の好きな方、編み物が好きな方には、職員と一緒にレクリエーション、機能訓練に取り入れて行っている。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	外出ができる時は季節に応じて計画を立てている。気候、天気の良い日は施設周辺を散歩して頂いている。ミカン狩り、柿狩りにも参加して頂いている。また、普段希望に応じて買い物、外食にも対応している。		
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	自己管理が困難であるため、必要物品は施設で立て替えたりして、個人のお金の管理はご家族が行っている。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	ご家族様からの絵ハガキなどはご本人様に渡し、居室に飾らせて頂いている。電話で話せる方は話して頂いている。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホールや廊下に季節感のある飾り付けを行い、利用者様の写真を飾り、会話のきっかけを作れるようにしている。テーブルにも季節の花を飾っている。トイレ等にもわかりやすく表示している。		
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ソファの好きな所に座って頂き、利用者様同士で会話をされたり、職員とも会話したりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室の窓から外の景色を見て頂いたり、家族の写真を飾ったりしている。		

自己	外部		自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	利用者様の状態に合わせて、畳の居室にしたり、ベッドや畳を使用している。転倒防止のため、センサーマットや足元センサーを使用している。		

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりの拡がりや深まりがあり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員は、生き活きと働いている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		